

## 南丹おいしい食の応援隊

南丹広域振興局

### 【概要】

- 南丹地域は、消費者、生産者及び流通関係者が互いに顔の見える距離にあり、互いに理解しやすい環境が整っています。
- そこで、南丹地域で生産される農畜産物を、南丹地域及びその周辺で消費する「地産地消」を一層進めるため、「消費者応援隊」、「生産者応援隊」及び「飲食店・流通業者応援隊」を設置して、相互に応援できる仕組み作りを展開してきました。
- その結果、大学等の食堂で地元産の食材を使った昼食が提供されたり、生産者と消費者が交流することによって地域の農業や農村に対する認識と理解が深まり、「食」と「農」を守るため相互応援の取組が広がってきています。

### 背景

#### ◇ 安心・安全に対する関心の高まり

府民のライフスタイルの変化、輸入農産物への依存や食品の偽装表示等により、食の安心・安全に対する関心が高まってきています。南丹地域は消費者、生産者、流通関係者が互いに顔の見える距離にあり、消費者からの「地元産」に対するニーズが高く、「地元産が食べられる店、地元産をすぐに購入できる店が近くにほしい」との声が聞かれるようになってきました。

#### ◇ 農業の維持が困難に

若者の都市への流出による農家後継者の不足と高齢化の進展や鳥獣被害により、農業を維持することが難しくなってきており、耕作放棄地が拡大してきています。

#### ◇ 市民農園や観光農園の需要の高まり

退職した団塊世代の生き甲斐づくりや都市住民の健康志向により、農作業をしたいという人口が増えてきています。

### 目的

「特色ある南丹地域の「地産地消」の創出と、地元農畜産物で繋がった楽しく健康的な食生活の実現」

## 取組

### ◇ 南丹おいしい食の応援隊推進協議会の設置

南丹広域振興局では、「食」と「農」の距離を縮め、関係者の絆を強めていただく様々な取組を実施してきました。その中で、公募した府民による「南丹おいしい食の調査隊」を結成して生産現場の調査や生産者との交流を図っていただいたところ、消費者からは「何か手伝えることがあれば、お手伝いをして生産者をサポートしていきたい」との声が、生産者からは「もっと消費者に喜んでもらえる農畜産物を生産していきたい」との声が聞かれました。

このような意見を具体化するために、消費者、生産者、飲食店・流通業者や専門家等で構成する「南丹おいしい食の応援隊推進協議会」を設置して、地産地消の推進に向けた仕組みづくりについて検討してきました。

### <協議会の構成メンバー>

生産者団体：亀岡市直売連絡協議会、京都府南丹地域農業士会

消費者団体：京都生活協同組合亀岡行政区委員会、南丹保健所管内食生活改善推進連絡協議会、亀岡市立吉川小学校PTA

流通・飲食店関係：亀岡料飲組合連合会、園部町つつじの会

専門家他：かめおかNPO情報センター、京都学園大学、亀岡市、南丹市  
京丹波町



京都学園大学の  
大西教授を  
座長とする協議会を設置

### ◇ 消費者応援隊活動

機械作業が出来ずに人手を必要としている生産現場からの応援要請を受けて、消費者応援隊を派遣することとしました。

隊員の募集は、新聞広報、パンフレットの配布、ホームページへの掲載や協議会委員の紹介等で行った結果、個人隊員54名と企業隊員50名の計104名の応募があり、播種や収穫などの作業を手伝っていただいています。

- 南丹市八木町池上で、白小豆の播種（7月26日）・収穫作業（11月1日）を応援  
南丹市八木町諸畑で、大豆の除草作業と小豆の収穫作業（11月22日）を応援



〔 炎天下のもと、汗だくになりながらの播種作業。 〕



〔 収穫された白小豆は、地元の有名和菓子メーカーへ！！ 〕



〔 大豆のコンバイン収穫前に、草取り作業。 〕



〔 コンバインの収穫が困難な広々としたほ場で小豆の莢取り。 〕

- 南丹市園部町仁江で、（株）虎屋京都工場（南丹市八木町北広瀬）の従業員が里山再生作業を応援

- ・ 11月15日：伐採木の片付け、クリの木の植栽
- ・ 3月14日：炭窯からの炭出し、椎茸の菌打ち、クリの木の獣害防止ネット設置



〔 クリの苗木の植栽 〕



〔 椎茸の菌打ち作業 〕

◇ 飲食店・流通業者応援隊活動

推進協議会の飲食関係の委員さんの紹介やロータリークラブの研修会に出向いて応援隊の取り組みを紹介するなどして隊員を募集しています。

飲食店・流通業者応援隊は、地域の直売所の農産物を積極的に使うなど、『新鮮で安心・安全な地元産の農産物を使っています』と表示した「のぼり」及び「ポスター」を掲示して、PRを行っています。



振興局の食堂でも、毎月第3木曜日、地元野菜を使った料理を提供。

食堂を利用している職員からは、「ぜひ続けてほしい」との声がでています。

◇ 生産者応援隊活動

消費者に農業の喜びや苦勞、食べ物大切さを知ってもらいたいとの生産者の思いもあり、生産者応援隊を結成しました。

生産者応援隊は、安心・安全な地元産農畜産物を生産して、消費者や飲食店・流通業者に供給しています。

朝市で新鮮な野菜を供給。  
京都学園大学の食堂へも  
配達されています。  
(ガレリアかめおか)



◇ 3隊の交流会を開催（2月6日 亀岡市内）

消費者、生産者及び飲食店・流通業者の各応援隊62名が一堂に会し、地産地消の取組や応援隊活動について意見交換を行い、最後に、「3隊がともに支え合う活動を展開し、地域の食と農を守っていく」と応援隊宣言が行われました。



地元食材を使った料理の試食



### 応援隊宣言

南丹地域(亀岡市、南丹市、京丹波町)は、京野菜、米、肉や牛乳・卵、丹波黒豆、丹波大納言、丹波栗等、京都府内でも最大の生産地です。

「地産地消」により南丹地域の「田・畑」や「山」の恵みを次世代まで守り伝えることは私たちの役割です。

ここに、南丹地域の農産物を通してともに顔が見え、ともに話ができて、ともに支え合う活動を展開し、南丹地域の豊かな「食」と「農」が守られるよう応援します。

平成21年2月6日

南丹おいしい食の応援隊  
生産者代表  
消費者代表  
飲食店・流通業者代表

#### ◇ 子どもたちへの「地産地消」への理解促進(8月26日 美山町)

管内の小学生に、地域の「食」がどのように作られているかを調査したり、地域の食材を使った調理を体験してもらうことにより、生産現場と生活の場との距離の近さを感じてもらえました。(23組55名の親子が参加)



〔 美山牛乳と平飼卵を使った  
アイスクリーム作り 〕



〔 赤色の万願寺とうがらしを使っ  
たジャム作り 〕

## 効果

### ◇ 交流によって相互応援の輪が拡大

生産者から地元産食材を使った昼食の提供が行われたり、生産者と消費者が農作業に共に汗を流すことによって、農業、農村や地域の食べ物に対する認識が深まり、生産現場の活性化につながるとともに、相互応援の輪が広がるきっかけとなっています。



〔 昼食時に交流 〕



〔 みんなで記念撮影 〕

### ◇ 「食」や「農」の大切さを再認識

各応援隊での情報共有が進み、各応援隊の役割や地域の「食」や「農」を守っていくことの大切さを認識しあえました。

### ◇ 未来を担う子供たち

管内の小学生に、地域の「食」がどのように作られているかを調査したり、地域の食材を使った調理を体験してもらうことにより、生産現場と生活の場との距離の近さを感じてもらえました。

## 現在

### ◇ 応援隊員の拡大と定着

今年度も消費者、生産者及び飲食店・流通業者応援隊員の拡大を図り、「地産地消」の輪をさらに大きくしていくこととしています。

消費者応援隊の出動現場も昨年度の繋がりは継続するとともに、応援を求めている新しいところの開拓も行っていく予定です。

## 振り返りと今後の課題

### ◇ 応援隊の取り組みを始めるに当たって

消費者応援隊が生産現場を応援するに当たって、農業をしている立場からすると、ありがた迷惑なところがあったり、大方は足手まといで生産者の邪魔をすることになるのではないかなど懸念する意見もありましたが、実際は非常に喜んでいただいています。

- ◇ 消費者応援隊を受け入れた地元では  
実際に困っている部分で労力を提供してもらったり、都市・農村交流の場が持てたり、今まで家から出なかった高齢の方も作業に参加したり、婦人部のまとまりができたりと地元の盛り上がりを感じられます。
  
- ◇ 応援隊の自立  
それぞれの応援隊活動が一過性のものではなく、継続して取り組まれ、地産地消の輪がどんどん広がっていくように、応援隊を自立させていくことが課題です。

#### 企画総務課コメント

南丹地域の特色～消費者、生産者、流通関係者が顔の見える距離にあり、理解しやすい環境にあること～を活かした事業取組ができないかという思いから地産地消に向けた新たな仕組みづくりが始まりました。

消費者、生産者それぞれから相手をサポートしたい、お役に立ちたいという動きが自然発生的に起こってきて、相互の輪が拡大していきました。

このような動きは放っておいては生まれません。三者の組織化を進め、つなげていくという地道なサポートからこのような好事例が生まれました。

また、この三者の協働関係をよりよいものとし、一過性に終わらせないためにも振興局が引っ張っていくのではなく、自立した動きとなるようなサポートを進めていくという次のステップを見据えている点も見習いたい事例です。